シート No.

ボーリング名		調査位置	岡崎市板屋町					北緯	
発注機関				調査期間	平成 4年 6月 5日～ 4年 6月 6日			東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者	林 統一	ボーリング責任者	
孔口標高		角度	180° 上 下 0° 90°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 90°	使用機種	
総掘進長	20.30m					試錐機	K R - 1 0 0	ハンマー落下用具	コーンフ・ーリー法
						エンジン	N S - 9 0	ポンプ	V - 6

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
		2.20	2.20		埋土	淡茶灰～淡褐灰			土質は部分的に細礫が混じる砂質土層主体。φ2～15mm程度の礫点在す。1.85mより砂質シルト層を呈する。
		0.50	2.70		細粒砂	淡褐灰			若干のシルト質を帯びる。
		1.20	3.90		シルト質砂	淡灰	緩い		砂粒子は微粒砂が主体。腐植物少量混入する。含水量湿潤性程度。
		0.75	4.65		微粒砂	灰	緩い		部分的にシルト分を薄く挟む。
		4.85	9.50		中粒砂	灰	中位		砂粒子は粗粒砂も混しり不均等。所々、φ2～25mm程度の礫点在する。含水量極大位。6.70～7.50m間、礫分の混入は認められず、7.50m付近より部分的に混入する。
		1.25	10.75		砂礫	灰	中位		礫はφ2～20mm程度が主体で、30～40%程度混じる。礫間は微～粗粒砂で充填される。
		0.65	11.40		中粒砂	濃灰	中位		砂粒子は大体均等。含水量大位。
		1.10	12.50		細粒砂	濃灰	緩い		中粒砂極少量混じる。含水量極大位。
		1.50	14.00		中粒砂	灰	中位		部分的にφ2～30mm程度の礫点在する。含水量大位で粗粒砂少量混入。
		4.60	18.60		砂礫	灰	中位～密な		礫はφ2～30mm程度が主体で、最大φ40mm位が点在する。礫間は微～粗粒砂によって充填される。16.50～16.90m間細粒砂挟在する。下部に従って礫径若干増大する。含水量大位。
		0.65	19.25		シルト混じり砂	黒灰	緩い		細粒砂とシルト層の互層を呈す。
		1.05	20.30		砂礫	灰	中位		礫はφ2～30mm程度が主体。礫間は微～粗粒砂が主体。

孔内水位 (m)／測定月日: 6/6 4.05

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.00	1	1	1	3/30	3
1.30					
2.00	1	1	2	4/30	4
2.30					
3.00	2	2	2	6/30	6
3.30					
4.00	2	2	2	6/30	6
4.30					
5.00	3	3	5	11/30	11
5.30					
6.00	4	4	5	13/30	13
6.30					
7.00	3	4	4	11/30	11
7.30					
8.00	4	3	4	11/30	11
8.30					
9.00	3	4	4	11/30	11
9.30					
10.00	9	6	10	25/30	25
10.30					
11.00	8	9	8	25/30	25
11.30					
12.00	3	3	3	9/30	9
12.30					
13.00	5	5	5	15/30	15
13.30					
14.00	7	8	8	23/30	23
14.30					
15.00	8	4	3	15/30	15
15.30					
16.00	9	12	16	37/30	37
16.30					
17.00	17	16	10	43/30	43
17.30					
18.00	27	8	5	40/30	40
18.30					
19.00	1	2	4	?/30	7
19.30					
20.00	4	6	5	15/30	15
20.30					

N値 —○—

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験 ( )

掘進月日: 6/5 ～ 6/6